

## ミラクル・リナックス

「MIRACLE LINUX V4.0 - Asianux Inside」が  
11月7日にリリースカーネル 2.6 対応、  
エンタープライズ Linux に  
求められる信頼性をさらに強化

国内エンタープライズLinux市場はシステム構築コスト削減のニーズを背景として急速に拡大している。加えて、政府によるオープンソースソフトウェア(OSS)利用の促進や、ハード/ソフトウェアのLinux対応製品の増加が追い風となり、今後の継続的な成長が見込まれる。この状況の中、ミラクル・リナックスは、最新のカーネル2.6を搭載した新製品「MIRACLE LINUX V4.0 - Asianux Inside」を2005年11月7日より出荷開始する。ミラクル・リナックスは、日中韓3カ国のLinux企業と共に、エンタープライズLinuxを共同開発する「Asianux」プロジェクトを展開しており、本製品は、このプロジェクトの成果物である「Asianux 2.0」を同梱し、日本市場向けにリリースしたものである。

RAS (信頼性、可用性、保守性)  
機能の強化

MIRACLE LINUX V4.0では、Webサーバやデータベース・サーバなど、Linuxが多く活用されている分野に加えて、企業の基幹サーバ

用途として高度な要件を満たすため、RAS機能の強化にこだわった。RASとは、システムの安定性を示す「信頼性、可用性、保守性」の基本3要素。今後Linuxが情報システムの中で適用範囲を拡大するためには、この機能の実装が鍵となる。

信頼性の強化ポイントとして、第一にカーネル2.6への対応があげられる。カーネル2.6は従来の2.4と比較して、高負荷時のシステムの安定性やスケーラビリティが大幅に改善されている。また、O(1)スケジューラによるマルチプロセッサ環境でのプロセス・スケジューリングの最適化や、NPTLでのマルチスレッド環境の処理改善、最新のハードウェアに対応する各種改善により、サーバが持つ性能を最大限に引き出す条件が実装されている。また、MIRACLE LINUX V4.0は、業界標準であるLSB(Linux Standard Base) 3.0規格に準拠しており、標準Linuxアプリケーションの相互運用性を確保している。

次に、基幹サーバとしての運用に不可欠な高可用性の実現だが、MIRACLE LINUX V4.0は、OSDL(Open Source Development Labs)が定めたLinux標準仕様CGL(Carrier Grade Linux) 2.0.2に正式に準拠して

いる。これにより、テレコム市場などのファイブナイン(99.999%)の高可用性が求められる環境にも対応可能である。なお、ストラタス社のftServerによるハードウェアの多重化や、MIRACLE CLUSTERPROによるHAクラスタ環境と組み合わせて、統合的な高可用性ソリューションを構築することも可能である。

Linuxを運用する際の不安として、システムに障害が発生した際の対処方法があげられる。障害内容の分析には適切なダンプを取得することが求められる。MIRACLE LINUXは、従来からLKCD(Linuxカーネルクラッシュダンプ)やLKST(Linuxカーネル状態トレーサ)など、各種ダンプ取得機能を実装していたが、新バージョンでは、diskdumpおよびnetdumpがより多くのデバイスへの対応改善を行い、より確実にカーネルダンプ情報を取得できる。また、高度な技術力が必要とされる障害のダンプ解析についても、実際にカーネル開発に携わる国内常駐のカーネルエンジニアが問題解決を迅速に行うための支援を行う体制が整っている。

さらに、日常的な運用フェーズで発生するOSパッチの適用作業を効率化するため、OS自動アップデートツールである「mlupdater」を搭

載しているのを、セキュリティや不具合修正のためのプログラムを自動的にWebサイトからダウンロードし、システムに適用することができる。

### Oracle との 高い親和性

従来から定評のあるOracleデータベースの稼動プラットフォームとしての特徴は、Oracleデータベース用にカーネルパラメータが調整済みの状態で出荷されるため、インストールが容易な点である。また、Oracle RAC用のファイルシステムであるOCFSのバージョンアップ版の「OCFS2」や、ASM (Automatic Storage Management) 機能を利用するためのASMLibなど、Linuxプラットフォーム上でOracleを利用するための各種ライブラリが同梱され、Linux版Oracleの全ての機能を最大限に活用できる。

全体的なインストール作業は、Oracle 10g対応のインストール支援ツールであるInstall Navigator for Oracle (ORANAVI) を利用することで、対話形式で簡単に実施できる。

### 一新された分かりやすい インタフェース

Linuxをサーバ用途で利用する場合でも、現実にサーバ構築作業や日常的な運用管理を行うことを考えると、ユーザーインタフェースや操作性は軽視できない部分だろう。



図1 MIRACLE LINUX V4.0の専用デスクトップ画面例

MIRACLE LINUX V4.0のデスクトップ環境には、KDEをベースとして新たに開発された専用デスクトップ「ReFineD」を搭載している。実際の画面を見ていただくと分かると思うが、利用者にとって直感的で分かりやすい画面構成となっており、Linuxに習熟していない管理者であってもストレスなく利用することができるだろう(図1参照)。もちろん、Linuxの各種設定管理はこのGUIを通して行うことができる。

日本語環境はインストールの初期状態から利用可能となっており、特に細かい設定は必要ない。画面表示のために日本語リコーフォントが搭載されており、自然で美しい日本語表示が可能である。また、日本語入力メソッドには「SCIM (Smart Common Input Method platform)」が搭載されており、GUIで入力方式のカスタマイズも可能である。余談ではあるが、SCIMでは日本語以外にも、中国語、韓国語の入力が可能となっており、画面上で入力言語を

簡単に切り替えることができる。このあたりからも、日中韓共同開発のAsianuxがベースになっているということが垣間見える。

### 用途に合わせた 幅広いラインナップ

MIRACLE LINUX V4.0では、IAサーバに対応する32ビット版(x86)と、64ビットインテル<sup>®</sup> Xeon<sup>™</sup>プロセッサやAMD Opteron<sup>™</sup>プロセ

ッサプロセッサに対応する64ビット版(x86-64)を同時出荷する。

また、製品ラインナップとして、複数年のプロダクトサポートをバンドルした「MIRACLE LINUX V4.0 バリュープック」や、比較的小規模なサーバ環境での利用を目的とした1CPU限定版「MIRACLE LINUX V4.0 One」を新展開する。さらに、クラスタ環境の構築やセキュリティ強化型サーバの構築を目的とした製品群も順次提供していく予定である。

ミラクル・リナックスのホームページでは、MIRACLE LINUX V4.0の評価版の申し込みを受け付けている。論より証拠、実際にインストールをしてみて、MIRACLE LINUX V4.0の持つ魅力を是非とも体験していただきたい。

#### お問い合わせ先

ミラクル・リナックス株式会社

TEL : 03-5404-5050

E-mail : info@miraclelinux.com

URL : http://www.miraclelinux.com/